

障がい福祉に関する市民アンケート調査集計結果報告書(概要)

1 障がい福祉に関する市民アンケート調査について

(1) 目的

市民の障がい者及び障がい福祉に関する意識等を計画に反映するために、実施しました。

(2) 調査対象者数

2,000件

令和4年12月1日現在の18歳以上の市民(無作為抽出)

(3) 調査方法

郵送によるアンケートを実施

(4) 実施期間

令和4年12月13日～令和5年1月31日

(5) 回答数及び回答率

回答件数 538件(回答率26.9%)

(単位:件)

項目	アンケート送付者数			回答者数	
	男性	女性	合計	回答数	回答率
10～20代	200	200	400	72	18.0%
30代	200	200	400	97	24.3%
40代	200	200	400	87	21.8%
50代	200	200	400	113	28.3%
60代以上	200	200	400	167	41.8%
合計	1,000	1,000	2,000	538	26.9%

※年齢無回答2件含む

2 アンケート調査結果の総括

(1) 調査項目から(抜粋)

① 障がいのある人との関わりについて(「問11～問12」)

「障がいのある人の支援をしたことがある」と回答した人は、48.7%と前回比2.6ポイント増で、障がいのある人との関わりが少しずつ増えていることが伺えます。

(具体的な支援内容)

「車いすを押した」23.5%(前回比0.9ポイント増)

「歩行を介助した」15.5%(前回比2.7ポイント減)

「目の見えない人への支援」7.1%(新設)

「耳の聞こえない人への支援」6.4%(新設)

② 障がい者施設への意識について(問16)

近隣に障がい者施設ができた場合にどう思うかの問いに対し、「不安である」と回答した人は、17.0%と前回比約7ポイント減で、地域住民の施設に対する意識の変化が伺われます。

(その他の回答)

「地域住民との交流や防災拠点になる」25.4%(前回比0.8ポイント増)、

「空き家や空き店舗の解消につながる」が22.7%(前回比2.6ポイント増)、

「地域活動の担い手が増える」が22.1%(前回比3.2ポイント増)

③ 共生社会の考え方について(「問17」「問18」)

共生社会の考え方について「共感する・どちらかといえば共感する」と回答した人は、89.4%と前回比約8ポイント増で、共生社会への理解が少しずつ進んでいることが伺われます。

(共生社会実現のため必要な市の施策)

「在宅生活に必要な介助を受けられる体制」7.6%(前回同ポイント)

「周囲の人の理解が深まること」7.3%(前回比1.1ポイント増)

「困った時の相談支援体制が整っていること」7.0%(前回比0.5ポイント減)

「安心して住める場所がある」6.5%(前回比0.1ポイント減) など

④ 障がいのある人とのコミュニケーションについて(「問9」)※新設項目

本年3月に「会津若松市手話言語及びコミュニケーション手段に関する条例」が成立施行され、普及啓発を図るため、以下の項目を新設し調査を行いました。

令和4年5月に成立した「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に関する施策の推進に関する法律」については、「内容を知っている・聞いたことがある」が16.0%とまだまだ認知度が低い状況です。

また、「障がいのある人のコミュニケーション手段について知っているものがあるか」の質問では、多い順に「手話言語」21.1%、「点字」20.9%、「筆談」19.9%、「拡大文字」8.6%となっています。

(2)自由記載から(抜粋)

① 福祉サービスの充実に関することについて(23件)

通所施設(生活介護)の充実を求める声が複数見られました。その他、ヘルパー、短期入所、医療的ケアの必要な方、強度行動障がいの方が利用できるサービスを求める声もありました。

② 相談支援体制に関することについて(3件)

断らない相談支援体制の構築、福祉サービスを受ける過程において相談しやすいシステムや体制づくりを求める声がありました。

③ 市からの情報提供に関することについて(19件)

障がい者施策が分からない、市民が知る機会が少ないように感じるなど、市の積極的な情報提供を求める声が複数みられました。ICT活用やデジタル化を求める声と同時に障がいのある方には、より丁寧な情報発信が必要との声もありました。

④ 障がいに対する理解促進に関することについて(32件)

障がいや障がい者についての知識や理解が不足している、障がい者に対する差別や偏見が残っているとの声が複数ありました。また、小学校など小さい頃から障がいのある人と交流することにより、障がい理解が深まり共生社会の実現につながるといった意見がみられました。

⑤ 就労支援について(5件)

障がいのある人の働く場の拡大、雇用の促進を求める声が複数見られました。

障がい者を雇用する企業への教育制度の充実を求める声もありました。

⑥ 福祉施策全般について(13件)

障がいのある人もない人も会津若松市に住み続けたいと思えるような施策、障がい者当事者や家族の負担軽減ができるような施策があると良いといった意見がみられました。

また、障がいのある人が一人でも不便を感じることがないように環境を整えることで誰もが生活しやすい街になるといった意見がみられました。

⑦ バリアフリー、交通に関することについて(15件)

視覚障がいの方や車いすの方が使いやすい歩道整備を求める声が複数見られました。その他、公共交通機関の充実や、ヘルパーの充実による外出機会の創出、冬期間の除雪の充実を求める意見もみられました。